

令和元年6月16日現在

機関番号：35408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02651

研究課題名(和文) ソゾ語(若柔語, Zauzou) 授与動詞構文の記述研究 類型的特徴の分析に向けて

研究課題名(英文) Descriptive study on Zauzou "give" verb constructions: Towards a typological analysis

研究代表者

宮岸 哲也 (Miyagishi, Tetsuya)

安田女子大学・文学部・准教授

研究者番号：30289269

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、チベット＝ビルマ語派のソゾ語について、民話の音声データと、基本動詞と授与補助動詞構文の用例データを収集した。これらのデータに基づき、ソゾ語の格助詞、名詞句構造、連体修飾構造、体言化、授与補助動詞構文について詳細に記述した。特に、ソゾ語の授与補助動詞構文については、与益・与害の用法のみならず、非意図的な事態を表わす非能動的用法があることを見つけた。更に、これらと同様の授与補助動詞構文を持つ他の諸言語と対照した結果、授与補助動詞構文における文法化の過程の類型的規則性を示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ソゾ語は話者人口3000人程度の無文字言語であり、その記述は十分に進んでいなかった。今回のソゾ語記述研究の成果は、絶滅の危機にある言語の貴重なデータを後生に残していく上でも、また、チベット＝ビルマ語派の研究を進めていく上でも意義がある。授与補助動詞構文の研究については、従来の研究よりも多くの言語を対象に、より多くの用法について対照研究を行った。その結果、従来の同様の類型論的研究に修正を加え、与益・与害の用王を越える授与補助動詞構文の類型論的研究へと道筋をつけることもできた。

研究成果の概要(英文)：In this study, audio data of folktales and example data of basic verbs and "Give" auxiliary verb constructions in Zauzou, a language of Tibeto-Burman languages, were collected. Based on this data, case particles, noun phrase structures, attributive modification structures, nominalization and "Give" auxiliary verb constructions in Zauzou were described in detail. In particular, as to the constructions, it was found that they have non-active uses, which express non-intentional events, as well as benefactive and malefactive uses. Moreover, this study was able to show a typological regularity of the grammaticalization process in "Give" auxiliary verb constructions as the result of contrastive analysis of several languages which have similar constructions to that of Zauzou.

研究分野：言語類型論

キーワード：チベット＝ビルマ語派 授与補助動詞構文 格体系 名詞句構造 連体修飾構造 体言化 言語類型論 対照言語学

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の背景：チベット・ビルマ語派ロロ語支に属するゾゾ語（若柔語、Zauzou）は、中国雲南省怒江傈僳族自治州の瀾滄江と怒江の流域に 3000 人程度の使用者を持つ無文字の消滅危機言語である。この言語の記述については、李・李 (1993) と孫・黄・周 (2002) の音韻、語彙、文法に関する概説書があるのみで、本研究が中心に取り上げる授与動詞補助構文についての詳細な記述はなかった。また、授与補助動詞構文の類型論的研究には澤田 (2014) があり、[前項動詞+授与補助動詞] の形式を持つ言語に限定し分析している点で本研究と重なるものである。但し、この研究は日本語、韓国語、マラーティー語、中国語の 4 言語の恩惠的用法のみを分析対象にしたもので、本研究が目指す非恩惠的用法を含めた総合的な授与補助動詞構文の類型論的研究ではなかった。

(2) 研究の動機：本研究代表者は、今までインド語群のシンハラ語と日本語の授与補助動詞構文の対照研究を行い、シンハラ語の同構文の適用範囲や意味範囲が日本語と比べ限定的であることを指摘してきた。一方、存在動詞の研究のために調査を始めたゾゾ語にも、授与補助動詞構文が存在し、日本語と同様に恩惠表現を豊かに表すばかりでなく、非恩惠的用法も兼ね備えていることが調査過程でわかった。これをきっかけに、ゾゾ語の授与補助動詞構文を詳細に記述することの必要性を感じ、併せて、より多くの言語を対象に恩惠的用法に限定しない同構文の広範囲な文法化について調べれば、総合的な授与補助動詞構文の類型論的研究へと発展させることができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

(1) ゾゾ語授与補助動詞構文の統語論的・意味論的究明：ゾゾ語の授与動詞 pi13 が補助動詞として、どのような前項動詞をとり、どのような条件で恩惠的・非恩惠的意味を表すのか、そして、それぞれがどのような構文的特徴（格パターンなど）をとるのか、その実態と規則性を明らかにする。

(2) 授与補助動詞構文の類型論的研究の再構築：ゾゾ語授与補助動詞構文の詳細な記述を踏まえ、日本語、中国語、韓国語、シンハラ語、その他同様の構文を持つ異系統の諸言語と対照しながら、恩惠的用法のみならず、非恩惠的用法も含めた、より大きな枠組みでの授与補助動詞構文の類型論的研究の方向性を示す。

3. 研究の方法

(1) ゾゾ語データの収集：ゾゾ語が使用される中国雲南省怒江傈僳族自治州にてゾゾ語全般の記述に必要なデータの収集活動を行った。具体的にはゾゾ語母語話者の協力によるゾゾ語基本語彙 3000 語の収集、基本動詞 508 語の述語文の作例、そして民話 7 編他の録音が挙げられる。また、ゾゾ語授与動詞構文の分析のために、基本動詞 508 語を 23 に意味分類し、それぞれから抽出した 151 動詞を前項動詞とする授与補助動詞文例をゾゾ語母語話者の協力を得て作成した。

(2) ゾゾ語データの分析と記述：上記データを電子ファイル化し、統語論的・意味論的観点から整理・分析し、ゾゾ語母語話者の研究協力者との共同による仮説の提示・検証・修正を経て、ゾゾ語の授与補助動詞構文とその付随的な統語論的事項についての詳細な記述を行った。

(3) 諸言語の授与補助動詞構文の収集と整理・分類：[前項動詞+授与補助動詞] の形式を持つ言語として、日本語、中国語、韓国語のほか、チベット=ビルマ語派、インド語群、ドラヴィダ語族、チュルク語族、モンゴル語族、ツングース語族の諸言語を対象に、記述文法書や先行研究を調査し、授与補助動詞構文の説明と用例を収集した。そして、各言語に許容される授与補助動詞文の構文的意味と前項動詞の選択範囲の点から分類を行い、授与補助動詞構文の文法化の類型論的考察を行った。

4. 研究成果

研究の成果として、当初の研究目的と直接関係するのは下記の (4) と (5) である。なお、

(1) と (2) は国内のチベット=ビルマ語派言語の格体系と名詞句の研究成果 (澤田 2010、池田 2016)、(3) は国内の名詞修飾表現の類型論的研究の動向を踏まえ、いずれも本研究を進めていく中で得られたデータを活用して行った研究の成果である。

(1) ゾゾ語の格体系と動詞構文：ゾゾ語の格標識について先行研究 (李・李 1993) を表 1 の通り修正し、包括的かつ体系的な記述を行った。具体的に言うと、主語助詞とされた ne31 は主題標識であるため格体系から除外した。標識のある対格と無標識の対格については、前者が特定で後者が不定であることを示した。位格助詞とされた 4 種類の助詞については、これらが場所全般を表す高度に文法化した形式ではないために名詞であると判断し、位格標識を特別に設けずに無標識(φ)とした。先行研究では結構助詞(格助詞)として取り上げられていなかった「名詞と名詞」を表す同格の lo31 と到達点を表す te33 を格助詞として新たに加えた。

標識	格 (意味)	標識	格	標識	格
φ	主格、対格 (不定)、位格、目標格	te33	到達格	tu33 (tho53)	比格
ʔo21	対格 (特定)、与格	the35	共格	ze33	属格
xe31	動作主格、具格、起点格	lo31	同格		

表1 ゾゾ語の格標識の分類

また動詞構文として自動詞文の主語 (S) と他動詞文の主語 (A) と目的語 (P) の格標識についても調べた。S は基本的に 1) のように無標識であり、動作主格 xe31 は取れない。

- 1) ŋü33 (* xe31) pe13 tei31 lo31.
私 AGT 北京 行く
「私は北京に行く。」

A は無標識か動作主格 xe31 で標示される。A は動作主であれば 2) のように無標識でも動作主格でも標示できる。しかし、経験者であれば 3) のように動作主格 xe31 をつけると不適格になる。

- 2) tsha33pu13 mɔ35 su33 ia33 (xe31) tsha33pu13 za33 su33 ia33 pa53 zɔ31.
本 教える人 CLS AGT 本 読む人 CLS 叩く ASP
「教師が学生を叩いた。」
3) ŋü33 (* xe31) tu55 ʔo31 mɔ53 ʔu13.
私 AGT 彼 ACC 夢で見る
「私は夢で彼を見た。」

P は無標識か対格 ʔo31 で標示される。P が無標識であるためには、P が基本語順の SOV の O の位置にあるか、A が動作主格 xe31 で標示されている必要がある。なお、P が不特定の対象であれば 4) のように無標識になるのに対し、特定の対象であれば 5) のように対格 ʔo31 で標示される。これは、定性の高い P が対格で標示されるという通言語的な傾向とも一致している。

- 4) ŋo31 xo31 tsou31.
あなた 肉 食べる
「あなたは肉を食べる (習慣として) 。」
5) ŋo31 ŋu31 xo31 teæ31 mo53 ʔo31 tsou31.
あなた 牛 肉 新鮮な CLS.PLACC 食べる
「あなたは新鮮な肉を食べる。」

以上を観察すると、ゾゾ語は A=S≠P という対格言語型の特徴と A≠S=P という能格言語型の特徴を持つことになり、言語類型論的にどちらの型に分類したらよいのかという問題が生じる。

(2) ゾゾ語の名詞句の構造：シナ・チベット語族言語の通言語的な名詞句構造の研究 (池田 2016) を参考にし、ゾゾ語の名詞句の構造と構成要素について、本研究で作成したデータを分析した結果、図 1 を示すことができた。この図について説明すると、主名詞を中心に各要素がこの配列で現れるが、6) のように、これらの要素が一つの名詞句に全て現れることはなく、特に主名詞の前後に現れる形容詞と指示詞については、いずれもどちらか一方にだけ現れる。また、類別詞は 7) のように指示詞、疑問詞、形容詞、数詞のいずれかとともに用いられることで名詞を作ることができる。名詞句末には表 1 に示した格標識が必要に応じて後置される。

関係節	指示/所有 限定詞	形容詞	名 詞	主名詞	形容詞	指示詞/ 疑問詞	数 詞	類別詞	格標識
-----	--------------	-----	--------	-----	-----	-------------	--------	-----	-----

図1 ゾゾ語の名詞句構造

- 6) fe31 fe31 khui33 xo53 ŋü33 ze33 khyi31 ŋa55 tu31 ʔo31
私 私 呼ぶ REL 私 GEN 犬 小さい 1 CLF
「フェイフェイという私の一匹の小さい犬」
7) a. ʔa33 vu13 b. xo55 za33 c. phu33 vu13 d. tu31 ka33
この CLS IRG CLS 白い CLS 1 CLS
「これ」 「だれ」 「白いの」 「一か所」

(3) ゾゾ語の体言化と連体修飾構造：国立国語研究所プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」のサブプロジェクト「名詞修飾表現」の共同研究員として本研究のゾゾ語データを提供したほか、ゾゾ語の体言化と連体修飾構造についてもまとめた。まず、ゾ

ゾ語の体言化は孤立語型声調言語であるため、語彙的体言化として 8)のように形態変化を伴わないものと、9)のように声調変化のみを伴うものがある。8)a の zu31 は動詞であり、8)b の zu31 は名詞（体言化）である。9)は声調が 33（中平）35 から（中高）に変化し体言化している。

- 8) a. pɛ13 zu31 tō55 ʔu35. b. pɛ13 ku55 pɛ13 zu31 ʔa31 tɛhi35 pi13
 地 揺れる 続く ASP 地 中 地 揺れ NEG ある 与える
 「地面が揺れている。」 「この地に地震が存在しないでくれ。」
- 9) vu35 vu33.
 卵 産む
 「卵を産む。」

また、虚化名詞（単独では使われず体言化のみに使われる名詞）や類別詞などが付加される体言化もあり、例えば、形容詞に人を表す虚化名詞 su33 を付けるとその属性を持った人を表す。注目すべき点は 10)のように形容詞が虚化名詞の前に来る場合と後に来る場合があり、形容詞が主名詞の前にも後にもくるという図 1 で示したゾゾの名詞句構造と一致している。一方、類別詞は数詞に付いて助数詞となる点で虚化名詞と区別されるが、虚化名詞と同様の体言化機能を持つ。11)は動詞を体言化するために類別詞 za33 が用いられた例である。

- 10) a. zɪ31 su33 b. su33 ŋa55
 大きい 人 人 小さい
 「大人」 「小人（子ども）」
- 11) a. mia31 tɛi31 za33 b. ei55 za33
 馬 乗る CLS 死ぬ CLS
 「馬乗り（騎手）」 「死者」

名詞節を作る文法的体言化としては、関係節標識 xo53 によるものと [指示詞+類別詞] によるものがある。なお、本研究のデータを見る限りでは、関係節標識 xo53 による文法的体言化は、12)のように情報構造における「説明」を担う傾向が強い。一方、[指示詞+類別詞] による文法的体言化は 13)のように情報構造における主題を担う場合が多く、主題標識 ne31 により主題が明示されることもある。

- 12) tu55 ʔa31 ŋɛ53 ne33 [[tɛiu33 ʔa31 ʔu55] xo53] miɛ55yɔ33 to53.
 彼女 NEG COP TOP 人 NEG 娶る REL 誓う ASP
 「彼女でないなら、[[結婚しない]こと]を誓った。」
- 13) [[ŋũ33 mu13] tu55 tshue55] ne31 tsha33pu13 ʔa33 tshue55.
 私 教える その CLS TOP 本 この CLS
 「[[私が教える]の]は、この本だ。」

連体修飾構造については、「関係節」（内の関係）と「名詞補文節」（外の関係）のどちらも関係節標識によって作られる。なお、関係節標識には、xo53 と tɛ31 の二種類があり、ゾゾ語母語話者によれば、14)のように tɛ31 が他との置き換えができない人やものを表す場合に用いられるのに対し、xo53 は類似物や比喩的な表現に用いられると言う。しかし、様々な用例を見る限り両者は互換性があり、必ずしもこの区別を厳密に行っているわけではない。

- 14) [[ʔa33xua31 khu33 tɛ31] ʔa33 za33] ne31
 アファ 呼ぶ REL この CLS TOP
 [[sɛ53va53 sɪ35 za53 ʔu13 xo53] sɪ33mi13zou31 tu31 za53].
 木 花 よう 育つ ASP REL 少女 1 CLS
 「[[アファという]人]は[[花のように育った]一人]の少女だ。」

(4) ゾゾ語の授与補助動詞構文：本研究の主目的であるゾゾ語の授与補助動詞構文についてデータを詳細に分析、分類した結果、日本語の授与補助動詞構文以上に文法化が進んでいることが分かった。以下では本構文の用法を大きく 3 つに分けて研究成果を説明する。

まず与益用法については、授与補助動詞がどのような意味の前項動詞をとれるか、その範囲の調査をした。その結果、所有変化、対象移動、作成、獲得、対象変化等を表す前項動詞ばかりでなく、16) 17)のように意志・無意志自動詞等についても可能であることが分かった。また、この構文の主語が有生・無生の無標識（主格）か動作主格によって標示されることと、15) 16)のように受益者が与格ʔɔ31 で標示され、前項動詞になかった項が授与補助動詞によって追加される構造を持っていることを指摘した。

- 15) piɔ31 tɛia33 eiɔ31luã53 xe31 ŋũ33 ʔɔ31 sou35 tɛ35 pi13 tɛ33 zo31.
 腕時計 CLS 王さん AGT 私 DAT 修理する 与える ASP MOD
 「腕時計を王さんが私に修理してくれたよ。」

- 16) $\eta\ddot{u}33$ $tu55$ $\text{?}\ddot{o}31$ $pu13$ $te\dot{i}31$ $z\dot{u}33$ $pi13$.
私 彼 DAT 北京 行く 与える
「私は彼のために (いっしょに) 北京に行ってあげる。」
- 17) $\text{?}\ddot{o}33$ $tu35$ $pa13$ $tuu33$ $kh\ddot{o}u35$ $ne33$ $mu31$ $ye53$ $yu33$ $pi13$ $te33$ $zo31$.
トウモロコシ 今 植える TOP 天 水 降る 与える ASP MOD
「トウモロコシを今植えたら雨が降ってくれたよ。」

また、同構文の与害用法についても調べた結果、前項動詞は与害の意味を持つものだけでなく、動詞全般が用いられ、その場合は文脈で意味が解釈されることと、主語は意志性、有生性の有無に関係なく、無標識 (主格) か動作主格で標示されることが分かった。

- 18) $\eta\ddot{o}31$ $ts\ddot{e}53$ $\text{?}\ddot{e}31$ $mu33ta33$ $\text{?}\ddot{a}31$ $n\ddot{a}55$ $ne33$ $\eta\ddot{u}33$ $\eta\ddot{o}31$ $\text{?}\ddot{o}31$ $sa53$ $ei55$ $pi13$ $xo33$ $xe31$
あなた 再び 2SG 加わる NEG 望む TOP 私 あなた ACC 殺す 与える MOD
「お前がもう一度加わりたくないんだったら、俺はお前を殺してやるぞ。」
- 19) $\eta\ddot{u}33$ $xe31$ $tu55$ $su33\eta\ddot{a}55$ $za33$ $\text{?}\ddot{o}31$ $teye53$ $\text{?}\ddot{a}35$ $pi13$ $zo31$
私 AGT 彼 子供 CLS DAT 転ぶ 与える ASP
「私は彼の子供を転ばせてしまった。」
- 20) $\eta\ddot{o}33$ $tu31$ $\text{?}\ddot{o}33$ $\eta\ddot{u}55$ $mu35$ $ze31$ $ku55$ $pi\ddot{o}33$ $\text{?}\ddot{o}33$ $pi13$ $le13$ $to53$
鳥 1 CLS 私たち 家中 飛び込む 与える ASP MOD
「(嬉しいことに) 一羽の鳥が私達の家の家中に飛び込んできてくれた。」 与益
「(不吉なことに) 一羽の鳥が私達の家の家中に飛び込んできやがった。」 与害
- 21) $\text{?}\ddot{a}31$ $\eta\ddot{o}33$ $ne31$ $\text{?}\ddot{a}33$ $su31$ $\text{?}\ddot{a}31ei\ddot{o}13ei\ddot{o}13$ $mu31$ $tehia53$ $phu53$ $pi13$ $to55$ $\text{?}\ddot{u}35$.
今夜 TOP こんなに 続けて 稲妻 光る 与える ASP MOD
「(恐ろしいことに) 今夜はこんなにも雷が落ち続けているよ。」

更に本研究の初期段階では予測できなかった成果として、与益とも与害とも解釈できない用例の発見が挙げられる。22)は有生主語の意志によらない境遇、23)は無生主語の不可解な状態、24)は思いもよらぬ幸運を表している。そして、更に重要な発見として、これらの意味を表す授与補助動詞構文は、24) 25) のように与格でも標示されることが挙げられる。本研究では、これらの文をその共通する特徴から非能動(inactive)の授与補助動詞構文と名付けた。

- 22) $tsa33kh\ddot{o}35$ $\text{?}\ddot{a}33$ $za33$ $tu31$ $tshe53tshe53$ $teie13$ $\text{?}\ddot{o}31$ $t\ddot{o}31$ $to31$ $ku55$ $ni33$ $pi13$ $to53$.
老人 この CLS 一生 山 洞穴 中 住む 与える ASP
「この老人は一生山の洞穴に住まざるを得ない。」
- 23) $za35$ $teie31$ $teiu55$ $xo55su31$ $tha33$ $tu53$ $pi13$ $to53$.
縄 新しい CLS なぜ 切れる 与える ASP
「新しい縄がなぜ切れているのだろうか。」
- 24) $\eta\ddot{u}33$ $\text{?}\ddot{o}31$ $nuyi33$ $tu31$ $le31$ $ue55$ $pi13$ $\text{?}\ddot{u}13$
私 DAT お金 1 CLS 拾う 与える MOD
「私は (幸運にも) 一元のお金を拾った。」
- 25) $ts\ddot{a}33$ $kh\ddot{o}35mi13$ $za33$ $\text{?}\ddot{o}31$ $tu31$ $kh\ddot{a}35$ $xe31$ $\text{?}\ddot{a}33$ $su31$ $mu33$ $pi13$ $to55$ $to53$
祖母 CLS DAT 朝 ABL こんなに 意識を失う 与える ASP MOD
「祖母は朝からずっと意識不明の状態だ。」

以上を纏めると表 2 の通りになる。従来の授与補助動詞構文の類型的な研究は、与益・与害構文の枠組みを打ち破ることはできなかった。ゾゾ語の非能動的用法はこの構文のより進んだ文法化の例であり、この用法の研究により授与補助動詞構文の新たな類型論的研究に発展させることができる。また、授与補助動詞構文と与格主語構文が接点を持つという事象は、従来の研究では観察できず、検討されなかったものであり、これにより今後の与格主語構文の類型論的研究にも新たな展開が期待できる。

用法	主語		項の増加
	意味役割	格標識	
与益	与益者	主格・動作主格	可
与害	与害者	主格・動作主格	不可
非能動	経験者/被動者	主格・与/対格	不可

表 2 ゾゾ語の授与補助動詞構文の各用法と構文的特徴

(5) 授与補助動詞構文の類型論的分析: 授与補助動詞構文の文法化には、様々な方向に拡散して発展していく図式が推察されるが、今回の研究では一つの方向として「与益<与害<非能動」の通言語的な含意階層が認められた。そして、与益用法のみを持つ言語としては、トルコ語、シンハラ語、マラーティー語、ビルマ語、タミル語、モンゴル語、満州語、シベ語、オロ

チョン語等があり、与益と与害を持つ言語としては、日本語、韓国語、キルギス語、ヒンディー語、ジンポー語等があり、与益と与害と非能動の用法を持つ言語としては、ゾゾ語、ネワール語、ヤッカ語、ネパール語、クルフ語等があることが分った。また、少なくとも、事物の移動を伴う授与補助動詞構文しか作れないような言語（トルコ語、シンハラ語など）は、与害用法の文法化に至らないこと、非意図的・自然的な与害が（条件付きでないと、或いは全く）言えないような言語（日本語、韓国語）は、非能動用法の文法化に至らないことが、今回のデータから認められた。今後は更に多くのデータにより研究結果の妥当性を検証したい。

略語

13:低中声調、31:中低声調、33:中平声調、35:中高声調、53:高中声調、55:高平声調、ABL:奪格、ACC:対格、AGT:動作主格、ASP:アスペクト標識、CLS:類別詞、COP:コピュラ、DAT:与格、IRG:疑問詞、MOD:モダリティー標識、NEG:否定、PL:複数、REL:関係節標識、TOP:主題

参考文献

- 池田巧編 (2016) 『シナ=チベット系諸言語の文法現象 1 : 名詞句の構造』 京都大学人文科学研究所
- 澤田英夫編 (2010) 『チベット=ビルマ系言語の文法現象 1 : 格とその周辺』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 澤田淳 (2014) 「日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化—他言語との比較対照と合わせて—」 『言語研究』 145 号
- 孫宏開, 黄成龍, 周毛草 (2002) 『柔若語研究』 中央民族大学出版社
- 李紹恩, 李志恩 (1993) 『怒族若柔語言資料集』 雲南民族出版社

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 (計 4 件)

- ① 宮岸哲也、与影性構文としての授与補助動詞構文の類型的研究、安田女子大学日本文学会国語国文論集、査読有、第 49 号、2019、3210-3220
- ② Miyagishi, Tetsuya ‘Give’ serial verb constructions in Zauzou : beyond benefactive and malefactive, *Proceedings of the 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics*, 査読有、2018、620-625
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/235296/1/proc_icstll51_43.pdf
- ③ 宮岸哲也・李紹恩、ゾゾ語（若柔語）の名詞句構造、安田女子大学大学院紀要、査読無、第 23 集、2018、17-33、https://yasuda-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=419...id...
- ④ 宮岸哲也・李紹恩、ゾゾ語（若柔語）江末方言の格体系、安田女子大学大学院紀要、査読無、第 22 集、2017、37-55

〔学会発表〕 (計 4 件)

- ① 宮岸哲也、与益用法を持つ授与補助動詞構文における文法化の発展の類型的特徴をとらえる対照研究会第 10 回公開発表会、2019
- ② 宮岸哲也、ゾゾ語の概要と特色、安田女子大学日本文学科講演会「中国雲南省少数民族ゾゾの文化」、2019
- ③ Miyagishi, Tetsuya ‘Give’ serial verb constructions in Zauzou : beyond benefactive and malefactive, *The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics*, 2018
- ④ 宮岸哲也、ゾゾ語の授与動詞構文、チベット=ビルマ言語学研究会第 45 回会合、2018

〔図書〕 (計 1 件)

- ① プラシヤント・パルデシ、堀江薫（編）、宮岸哲也 他、ひつじ書房、日本語と世界の言語の名詞修飾表現（仮題）、2020

〔その他〕

上記に該当しない発表

- ① 宮岸哲也、ゾゾ語（若柔語）の類型的特徴と授与補助動詞構文、大阪府立大学日本語・日本語教育研究所、2017

6. 研究組織

(1) 研究協力者

研究協力者氏名：李 紹恩

ローマ字氏名：(LI, xiao en)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。